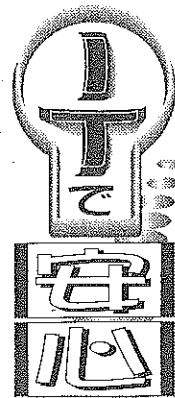


(第3種郵便物認可)



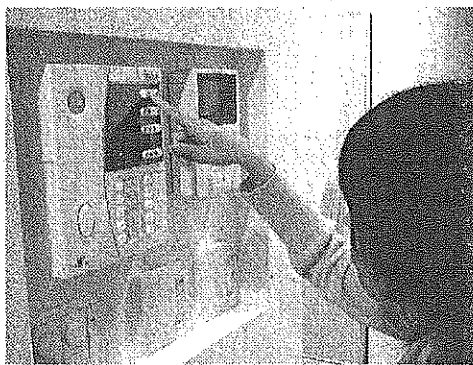
⑦

生活拠点となる住宅においてホームセキュリティシステムの導入が増え続けている。主流はドアや窓にセンサーを設置、何者かが侵入すればセンサーに連絡し警備員が駆けつけるタイプ。セコムが先行、全国で圧倒的なシェアを持つが、市場の増大に目をつけた参入組も相次いでいる。

つ公益企業の参入、成長が目立っている。関西地区ではエネルギー自由化が進行する中、激しい競争を繰り広げている関西電力と大阪ガスの双方が住宅用セキュリティシステムに参入している。競合激化で利用料金は安くなる傾向にある。後発組は先発のセコムに比べ10~20%安い価格を設定、「月額5000円前後のプランが中心層」(大阪ガスセキ

### ホームセキュリティ

## 侵入者検知から予防へ



キュリテイス(ビス)という。

一方、既存の防犯システム

員が到着する前に金品を盗

方を導入した。

ITの進歩に伴って、防

住宅への侵入者を防ぐシステム(大阪ガスセキュリティサービス) ▲.....

を指摘、改善を図ろうとする動きもある。各社のシステムはいずれもセンサーで侵入者を検知、警備員が駆けつける仕組みになっている。だが犯罪のブ

りア、敷地エリア、屋内の建物エリアすべてを監視する。敷地内に侵入しにくいことをアピールすることも、侵入されたとしてもすぐ分かるようにしている。戸別の導入でも効果があるのはもちろん、分譲団地など地域全体で導入すれば侵入者が寄りつかないという面ですらに効果は拡大する。

犯機器の進化が続くのは間違いない。ただ昔の生活コミュニケーションが防犯効果を上げてきたように、今後は知恵すなわちソフト面での工夫も重要な要因になってきそうだ。(おわり)